

### 第3回芸術会館美楽来美術品収集懇話会 会議記録（要約筆記）

日 時 平成29年2月21日（火）午前10時～  
場 所 生駒市コミュニティセンター206会議室  
参加者 天根俊治（奈良芸術短期大学副学長）  
松村清孝（奈良市杉岡華邨書道美術館学芸員）  
中田好昭（教育長）  
事務局 奥畑生涯学習部長、西野生涯学習課長、清水生涯学習課長補佐、佃生涯学習文化副係長、村上生涯学習課

#### 1. 開会（事務局）

##### 事務局より会議非公開の説明

（平成24年6月開催の第1回懇話会にて、議事録を後日公開することで会議の透明性を担保するという決定に準じ引き続き非公開）

##### 参加者了承

座長選出：互選により中田教育長 選出

##### 座長挨拶

案件1 「収集作品に対する意見及び助言について」

座 長：絵画作品7点についての意見を求める。

##### 事務局より作品の説明

参加者：「ル・サロン」で銅賞・入選した作品とあるがこの公募展の位置付けはどういったものか。

事務局：「ル・サロン」とは、350年の歴史を持つ世界最古のフランスの老舗公募展で、マネ・ルノアール・ドラクロア・モネなどの名立たる画家や、「考える人」の作者である彫刻家のロダンなどが挑戦した公募展である。現在も世界各国の画家たちが自らの実力を試す場とし

て挑んでいる。

参加者：他に日本人が入選している実績があるか。

事務局：1971年と1974年に二度の金賞を受賞したフランス在住の画家赤木曠児郎(あかぎこうじろう)氏や、日本に洋画を根付かせた黒田清輝(くろだせいき)氏の他、五姓田義松(ごせだよしまつ)氏・和田英作(わだえいさく)氏などがいる。

座長：何か意見はあるか。

参加者：「ル・サロン」という公募展の銅賞・入選作品としての価値がある。さらに、生駒市で生活し地域で貢献された作家の作品が収蔵されるということは、市の文化活動・市民の精神的な面を広げていくという発想になる。特に抽象画というのは、人の見方によってイメージが異なるため、それぞれの人の感じ方を知って話し合うことによって、輪が広がっていく。それが抽象画を鑑賞する楽しさであり、このような活動により美術品を通じて、生駒市のコミュニティが広がっていく。

また展示する側の生駒市にとっても、単純に名画を収蔵するということとは異なり、この作品を通してコミュニティを広げていくことに貢献していく、という二重の意味があるため収蔵に値する。

参加者：生駒市において生駒市芸術協会連盟理事長をされ地域への貢献度が大きい方だった。そういう方の作品を地域として保存していくというのは非常に大事なことである。

作品を観ると、初期の写実的な作品から後半は抽象的な作品へと、徐々に変化している。個々に収蔵するより一人の作家の作品を歴史的な変化を踏まえ一連で、かつ同じ公募展に出展した作品を観られるということは、美術史における今後の研究テーマとしても非常に意義がある。

参加者：平本氏はどこかの会派に属していたか。

事務局：日本表現派の同人である。

参加者：抽象画というものは個々の見方が異なり、またコミュニケーションのツールとなる。一連の作品を寄贈いただくというのは、ストーリー性があることから、そういう意味においても有意義である。

参加者：絵画でも書でも、観るだけでなく語り合うことが必要である。抽象画は特に人によって見方が変わるため物語ができる。自分の世界だけでなく他人の意見を聞くことによって、観る目が広がり感性も広がるし、生き方も広がってくる。ちょっとしたサロンでお茶を飲みながら語りあうなど、絵画を鑑賞するということを愛好家だけものにせず、気軽に集まれる場があると良い。

座長：地域のコミュニケーションが少なくなっている中、サロンは交流の場として注目されており、生駒市では駅前図書室などでも同種のイベントを開催している。美楽来でもそういったイベントができるか検討してもらいたい。

座長：その他、作品の展示に当たって留意する点はあるか。

参加者：現在、どこの美術館でも収蔵スペースがないということが問題になっているが、生駒市はどうか。

事務局：地下に温湿度管理の可能な収蔵庫がある。今回の作品を受贈しても収蔵スペースは確保できている。

座長：収蔵スペースの問題は、市町村を超えてどこか1箇所管理するなどの検討が必要。多くの市民に広く作品を観てもらおうという意味では今後の課題となる。

参加者：公民館や小中学校、病院などで展示するという方法もある。絵画には人に与える精神的な影響が大きいいため小中学校などにおける教育にも生きていく。

参加者：他市でも台帳管理されていない、様々な書や絵画などの作品が小中学校に展示されているが、期間が長くなると管理が難しくなるとい

う問題点もある。

座 長：他に意見はないか。

参 加 者：最後に、改めてとなるが、その地に根ざした作家の作品となると、市民の観る目が変わる。受贈する場合には、市民便り等でその点をアピールすることによって、通常の絵画を鑑賞する以上の視点が生まれる。ローカル色を活かした展示会等を検討していただきたい。

参 加 者：作品だけを観て関心や興味を持つということは、一般の市民には難しい。作品に興味を持つきっかけ作りが必要である。作品を見せると同時に、一步踏み込んで作者自身について伝えることにより、一気に作品に対する興味関心が深まることがある。美術を通して芸術文化が市民のよりより生活に繋がっていく。

座 長：本件は、寄贈作品として一定の評価をいただいた。いろいろなご意見、貴重なアドバイスを参考にしたい。

案 件 2 「その他」

参 加 者：特になし

事務局から本日の会議でいただいた貴重なご意見を参考に、教育委員会で受贈の判断をする旨を説明

以上

会議終了